

【爪で拾って箕(み)でこぼす】

苦心して爪の先で一つ一つ拾いためた物を、いっぺんにこぼしてしまうことです。「粒々辛苦して貯蓄した物を一気に、または無雑作に使い切ってしまう」ことや、「貯蓄する一方で浪費する」ことの意味に使われます。

箕とは、農家で穀類の殻(から)やごみなどをより分けるために使う道具です。これに両手をかけて、この中に入れた穀類(殻やごみの混じった)をあおりふって、また風を利用して、殻やごみを箕の外に吹き飛ばします。

箕の“其”が箕の形を表わしたもの(甘)に両手(𠂇)を添えたもので、箕の本字です。其が“それ”という代名詞や助字に用いられるようになり、それと区別するため、箕は竹ひごを編んで作る所から“𦰩” (竹かんむり)を加えて箕専用の字を作りました。

箕はおおむね方形をしていますので、“其”は方形の意味を表わす部首として用いられます。

“基”は、家の土台(基礎)を表わした字です。家の形は普通方形ですから、土台も方形をしています。“棋”は、方形の木という意味の字で、碁盤や将棋盤を表わした字です。碁や将棋の意味に使われます。

例えば、碁や将棋を仕事にする人を“棋士”と言い、碁や将棋の世界を“棋界”と言います。

“碁”は、碁石を用いて勝負を争う囲碁を表わした字です。元来は碁も将棋も“棋”で表わしているのですが、両者を区別するためにこの字が作られました。

“旗”は、方形をした旗という意味の字です。毛で作った旗が“旒”、吹き流しが“旒”四角い形をしたのが“旗”です。

さて、拾という字は、扌(手へん)と合の会意字で、「物が手と合う」という意味で、“ひろう”ことを表わしたものです。音は“ジュウ”で数の“十”と通ずるため、「金拾万円」という使い方をされています。

“合”は、△(シュウ)と口(コウ)の会意形声字で、ここでは口がこの字の発音を表わしていますが、“拾”では△が発音を表わしています。

“△”は、物が沢山集まっている事を表わした符号で、“众(衆の本字)”や“𡇗(集の本字)”と同じ構成で、いずれも“シュウ”という発音です(人の集まりが衆で、鳥の集まりが集で、物の集まりが“△”という事です。勿論、今はそのような区別はありません)。

“合”は、大勢の人の口(意見)が一致する、という意味で“あう”ことを表わしたものです。